

平成 30 年 6 月 26 日

医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
e-ASIA 共同研究プログラム
事後評価コメント

研究開発課題名 革新的なデング流行対策と治療法開発に資するデングウイルス準種と血管透過性因子の網羅的解析
研究開発機関名 長崎大学
研究開発代表者名 長谷部 太

フィリピンとベトナムのデング熱感染者からの臨床試料の解析が行われ、デングウイルスの非構造タンパク質の一つである NS4B のアミノ酸置換が宿主適合性に関与するということを発見したことは評価できる。また、ベトナムにおけるデングウイルスⅢ型の流行が終息したため、計画通りに検体収集及び解析試料数ができなかったものの、ベトナムのハノイ在住の健康人には、デングウイルスⅢ型およびⅣ型に対する抗体をもつ住民が少ないという重要な疫学的知見が得たこと、その調査結果から今後の流行予測を示した点は評価できる。さらに、長崎大学に留学生を受け入れて研究交流の効率性を高めたことは評価できる。

一方、ベトナム、フィリピンの研究者が検体収集、分子疫学的研究を行うだけではなく、アミノ酸置換変異体作製、トランスクリプトーム解析へどのように関与したかが明確ではない。また、デングウイルス準種と病態との関連及び血管透過性因子の同定による重症化の要因解明に至っていないため、継続的な研究開発が行われることを望む。

以上